

# えぽ九州だより

EPO LETTER



もくじ

- 巻頭メッセージ 葛西 満里子 氏
- 九州・沖縄でのESDの取組
- ESD環境教育プログラム実証事業
- 協働取組加速化事業
- グリーンギフトプロジェクト
- 交流事業・出展
- ビジターセンター紹介
- 九州地方環境事務所からのお知らせ

九州環境  
パートナーシップオフィス  
EPO九州  
ニュースレター

2016年 発行



vol.12

## 巻頭メッセージ 「地域に根ざした環境教育と持続可能な地域を担う人づくり」

NPO法人 緑の工房ななぐらす 理事長  
ガールスカウト日本連盟 理事

葛西 満里子 氏



きものがあること等をお伝えし、未就学児には森の模型を作って、森の成り立ちのお話や森にいるいろんな生きものたちを工夫しながらお伝えしました。どの場でも思った以上に理解が深まって、子どもたちの感性や順応性にとっても感動しています。森あそびでは、草花、どんぐりなどの教材が近くにたくさんあるので、そういった自然の恵みも活動を助けてくれています。

### ● 持続可能な活動づくりと チェンジ・エージェント

ESDを社会づくりの担い手を育む教育として見れば、そのような活動をされる方はみんな、変化を起こしていくチェンジ・エージェントだなと感じています。どのチェンジ・エージェントもいろんなことを形にするため、チャレンジしながら進んでいくのではないのでしょうか。私たちななぐらすのメンバーたちも思いを絶やさず、楽しくやりがいのある活動をしながら、実際に思いを形に変えていきたい。そのためにガールスカウトのある方から教わった「チャチャちゃのちゃ」という合言葉を日々心に留めて活動しています。「チャンスを活かす」「チャレンジしよう」「それをちゃんとやりましょう」「ちゃっかりそれをやりながら楽しみましょう」そうすることで持続可能な活動だけでなく、持続可能な地域づくりにもつながっていくのではないかと考えています。



※平成27年12月11日(金)に開催された「ESD学びあいフォーラム in 大分・竹田」での講演内容をもとに、要約・加筆の上、掲載しております。

### ● ななぐらすと環境活動

「ななぐらす」とは、七草のこと。身近な草花がたくさん見られる大分のすばらしい自然環境を永遠に残したい、という願いをイメージしたネーミングです。大分県が地球にやさしいむら事業で行った「久住高原環境教育ミーティング(現、九州環境教育ミーティング)」へ実行委員として参加した仲間が集まり、大分の素晴らしい環境をいつまでも残したいという思いから、平成12年9月に「緑の工房ななぐらす(以下、ななぐらす)」を発足させ、平成13年8月にNPO法人となりました。ななぐらすでは自然とのふれあいや人同士のつながりとおして、自然と人が共生する、持続可能な社会づくりを目指した活動を行っています。

### ● 21世紀久住の森応援団での活動

平成13年度の大分県豊かな森づくり大会をきっかけに、1.5haある大分県久住町の「21世紀久住の森」を15年以上、毎年約1haずつ手入れをしてきました。初めのころは草刈りイベントの後でもスタッフで手入れをしに来るほど草が生えるのが早かったですが、今はいい森になりました。木が育って下草が生えにくくなったこともそうですが、いろんな生きものが住み着いてくれるようになったことが何よりうれしい。草花のほかに、カブトムシやカミキリムシなどの昆虫、そして鳥もたくさんいて豊かな森になってきました。活動はななぐらすが中心ですが、草原での音楽会や自然観察会、森づくりキャンプにに来る子どもたち、手入れのボランティアをしてくださる企業の方や大分県森林ボランティア支援センターに登録した方々などいろんな方とのつながりがあって行えています。

### ● 子どもたちへの環境教育活動

ななぐらすでは、小学校での自然体験活動や保育園・幼稚園での環境教育、子どもたちとの森あそびなど様々な活動も行っていきます。小学生には私たちも自然と一体であるということ、豊かな自然とは多様な生

## 九州・沖縄でのESDの取組

### ESD学びあいフォーラム in 大分・竹田

テーマ 地域でかたろう! エコパークを活かした人づくりと地域づくり  
開催日 平成27年12月11日(金)  
会場 竹田市公民館竹田分館(大分県竹田市)  
主催 EPO九州  
共催 九州環境教育ミーティング

大分県竹田・豊後大野地域では、ユネスコエコパーク認定に向けた取組が展開されています。本フォーラムでは、持続可能な地域づくりを担う人づくりについて地域の方々と語りあう場として、4人の講師をお招きしました。講師の方よりESDやエコパークについての講演や地域での活動紹介をしていただいた後、参加者を交え100年後、200年後の地域の将来像について考え、未来に思いをはせながら、そのためにいま何ができるのかをともに考える意見交換を行いました。

- 話題提供「エコパークを活かした地域づくり」  
日本文理大学工学部教授 杉浦嘉雄氏
- 活動紹介
  - ①「地域に根ざした環境教育」  
NPO法人緑の工房ななぐらす(大分市) 葛西満里子氏
  - ②「エコパークで地域おこし」  
奥嶽茶屋(豊後大野市) 三代泰司氏
- 意見交換 コメンテーター  
NPO法人くすの木自然館(鹿児島県) 浜本奈鼓氏

### 西日本ESDミーティング

開催日 平成27年12月16日(水)  
会場 岡山国際交流センター(岡山県岡山市)  
参加者 学校、NPO、自治体、ESD実践者など

平成25年度より環境省では「ESD環境教育プログラム実証等事業」を全国で展開してきました。本ミーティングは、西日本(近畿・中国・四国・九州地方)の各ブロックの特色ある取組を持ち寄り、その成果を共有し、お互いに学びあうことを目的に、開催されました。

基調講演の後に行われた分科会では、認定指定NPO法人地域環境ネットワーク(大分県)とNPO法人くすの木自然館(鹿児島県)による取組事例の発表が行われ、九州での取組を広く発信する機会となりました。



#### 分科会テーマ

- 1 「自治体環境教育施策と連動したESD視点による地域教材化とその運用」
- 2 「環境教育×持続可能な地域づくり」
- 3 「身近な題材をESD教材にしよう」
- 4 「地域をつなぐプラットフォームと担い手」

### 九州環境教育ミーティング

テーマ 九州の大地から未来をつくる  
～自然を豊かに楽しもうよ!!～  
開催日 平成28年3月5日(土)、6日(日)  
会場 久住高原荘ほか、竹田市・豊後大野市(大分県)  
主催 九州環境教育ミーティング  
共催 EPO九州、公益社団法人 日本環境教育フォーラム

九州環境教育ミーティングは、九州の環境教育に興味や関心のある個人・団体の経験交流・出会いの場として、毎年3月に開催しています。今年は20回の記念大会として、第1回大会の会場である久住高原荘をメイン会場とし、竹田市・豊後大野市でのエコパークやジオパークなどと関連した様々なテーマの分科会を実施。また、大会にあわせて20周年のふりかえりとこれからの語り合う「記念行事」も行われました。学生からベテランまで幅の広い年齢層が参加し、豊かな自然や文化の学びとともに、環境教育への理解を深め、多くの団体と交流することができました。

- 第1分科会 今と昔、宮崎と大分をつなぐ“魂の物語”
- 第2分科会 豊かに自然そして農を楽しむ!
- 第3分科会 どう活かす!? ジオパーク・エコパークのブランド力
- 第4分科会 久住高原・野焼きがつなぐ草原のみらい
- 第5分科会 きらり! みんなが元気になる「森のカフェ」を考える
- 第6分科会 地球気功



あなたの毎日が、未来になる。



環境省ESDキャラクター「はぐくん」・文部科学省ESDクエスト

# 学校と地域が連携した ESD環境教育の取組

環境省ではESDの視点を取り入れたモデル的なESDプログラムを55本とりまとめました。九州・沖縄地域では、そのプログラムをもとに各県の8団体がワーキンググループとして、「ESD環境教育プログラム実証事業」に取組み、地域に根差したプログラムを学校等と連携し、検証・実証しました。EPO九州は地域事務局として、株式会社フラウトともにワーキンググループの運営を支援。ここでは、各県の取組を紹介します。

## 福岡 白川の緑を守ろう！

**実証校** 大牟田市立白川小学校  
**実施団体** 株式会社フラウト

先輩たちが守ってきた敷地内の624本の樹木について、最初に木の種類や特徴を学習。その後、専門のゲストティーチャーの方々から「木を育てる・増やす」「木について調べる」「木のお世話をする」の各テーマで将来にわたって樹木を守っていくために必要なことを学習し、自分たちができることは何かを考えるプログラム。学習したことを通じて、後輩や地域の方に向けて一緒に樹木を守っていくことについて発信しました。



## 佐賀 佐嘉吉野ヶ里に学ぶ未来の暮らし～太陽エネルギーのパワーを感じよう～

**実証校** 神崎市立西郷小学校  
**実施団体** NPO法人温暖化防止ネット

古代の「吉野ヶ里歴史公園」(遺跡)と新しい「吉野ヶ里メガソーラー発電所」での体験を通し①佐賀平野は日射量が多く、古代から現代まで太陽の恵みに支えられてきたこと、②時代の移り変わりによる暮らし方や環境の変化、太陽エネルギーの活用法の進化を体感するプログラム。昔と比べてエネルギーを大量消費していることに気づき、どのような影響を環境にもたらすかを学びました。また、「太陽光王国・佐賀」の実現を目指す地域の取組を学び、各自が日々の生活でできることを考え、環境に優しい佐賀を未来へとつなげるための行動へ移すことを目指しました。



## 大分 「まち」の中で使われている「木」について考えよう！

**実証校** 吉野校区吉野育成クラブ  
**実施団体** 認定指定NPO法人地域環境ネットワーク

1年目は「学校」、2年目は「暮らし」と段階的に学習範囲を広げてきました。最終年である3年目は、「まちづくり」にも木が深く関わっており、木を適正に活用することが森林保全やまちの活性につながることを学習するプログラム。子どもたちは指導員や保護者と共に、大分の町にも木が活用されていることを事前学習し、その後、環境モデル都市である熊本県小国町の取組を見学して、まちづくりと森林のつながりや、木の活用と森林管理の重要性について改めて学びました。



## 鹿児島 『学校周辺の自然と「生き物」と「私たちの生活」のつながり』

**実証校** 始良市立山田小学校  
**実施団体** NPO法人くすの木自然館

1年目は「学校」、2年目は「暮らし」と段階的に学習範囲を広げてきました。最終年である3年目は、「まちづくり」にも木が深く関わっており、木を適正に活用することが森林保全やまちの活性につながることを学習するプログラム。子どもたちは指導員や保護者と共に、大分の町にも木が活用されていることを事前学習し、その後、環境モデル都市である熊本県小国町の取組を見学して、まちづくりと森林のつながりや、木の活用と森林管理の重要性について改めて学びました。



## 宮崎 美しい地球を守れ～ゴミ減量大作戦～

**実証校** 小林市立永久津小学校  
**実施団体** 一般社団法人てらのはの森の会

既存の総合学習「ごみを減らそう」を利用し、ESDプログラムを実施したプログラム。ゴミというテーマの特質上、対処的な解決にならないよう配慮しました。将来目指すべき社会を想像し、広い視野によるものの方を見方を提案させます。リサイクル施設見学や環境問題に詳しい講師の話や聞き、ゴミについての問題意識を高め、地域での取組事例を調べるアンケートを実施。結果を集計し、ゴミ減量の解決策をパンフレットで報告。授業の途中で疑問に思った、ゴミはたい肥になるのか(コンポスト実験)も実施しました。



## 沖縄 世界の水と伊良部の水

**実証校** 宮古島市立伊良部中学校  
**実施団体** 一般財団法人沖縄県公衆衛生協会

世界の水環境をフォトランゲージ等で視覚的に理解し、世界の水環境の現状を深めるプログラム。実験を通じ、伊良部島の水環境を理解。地元の講師から昔の島の水環境の歴史を学び、現在とこれからについて考えます。また、実際の水環境を確かめるため、フィールド調査を行い、表層水と地下水の水質汚染や塩害について学びました。さらに、内容を自分たちの考えとしてまとめ、学習発表会で成果を発表し、地域へ発信することで、地域住民の理解・協力を求めました。



## 長崎 ニホンウナギから対馬を考えよう！

**実証校** 対馬市立金田小学校・西小学校  
**実施団体** NPO法人環境カウンセリング協会長崎

ニホンウナギは産卵期に太平洋を横断する生態があることを理解し、ニホンウナギや水産資源の保全に対する関心を高め理解を深めるプログラム。小学校高学年から中学生を対象に出前講座1(ウナギの不思議な生態)及び、出前講座2(ウナギ研究の最先端)で構成しました。



ニホンウナギ

## 熊本 森林の役割と地下水・私たちの暮らしとのつながりについて考えよう

**実証校** 学校法人尚絅学園尚絅中学校  
**実施団体** 一般社団法人 アイ・オー・イー

日本や世界の森林事情、公益的機能、熊本の豊かな地下水や暮らしとのつながりを学ぶプログラム。生徒の関心喚起のため、樹木や葉っぱの実物や写真等を使い、テーマについての興味・関心を引き出します。また、ワークショップで、課題提起を行いました。次に企業が行う水源涵養の森づくりや工場見学等の体験学習で、森林の役割や熊本の貴重な水資源を未来に引き継ぐ取組を学び、理解促進を図りました。生徒が自らの実体験から、郷土の自然や環境問題等に関心をもち、持続可能な社会づくりに向け、自分たちができる具体的なアクションプランづくりを行うことによって今後の行動につなげました。



## ESD・環境教育実践フォーラム in 九州

**開催日** 平成28年3月6日(日)  
**会場** エルガーホール(福岡市)  
**参加者** NPO、教育関係者、ESD実践者など

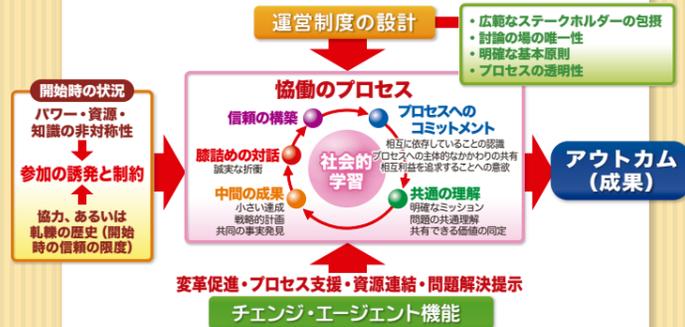
環境省が平成25年度より3年間実施してきたESD・環境教育の取組について、九州・沖縄地域での実践事例とその成果を広く発信することを目的に、フォーラムが開催されました。「森は海の恋人」の活動に取組む島山重篤さん(NPO法人森は海の恋人理事長)による基調講演の後、沖縄県宮古島市と鹿児島県始良市におけるESD環境教育の事例紹介が行われました。「ユネスコスクール支援から広がるESDの可能性」をテーマに行われたフロアディスカッションでは、参加者から多くの質問があり、活発な意見交換がなされました。



### 事例紹介

- 宮古島市での取組「シマと生きる～暮らしと水環境」  
一般財団法人沖縄県公衆衛生協会 岸信 朋氏
- 始良市での取組「学校周辺環境の再認識と子どもたちの成長」  
NPO法人くすの木自然館 浜本 麦氏

EPO九州では、環境省「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」に取組みました。公募で採択された団体や協議会が、環境保全の視点に立った地域活性化・地域づくりを協働の考え方を取り入れながら推進・強化するものです。この事業では、環境保全や地域づくりの具体的な事業に取組むための、協議会活動やネットワークの基盤強化に焦点をあて、中長期的に取組を持続させるしくみづくりを支援します。EPO九州では採択された2団体の取組をサポート(伴走支援)しました。



佐藤・島岡(2014)

## EPO九州の支援取組

### ●第1回連絡会(キックオフ)

採択決定を受けて、実施団体、九州地方環境事務所、EPO九州の担当者による連絡会を開催しました。それぞれの団体が取組む事業計画について情報交換し、協働取組カレンダーをもとにした事業方針や中期計画づくりに向けたロードマップについて意見交換しました。

### ●第2回連絡会(中間報告)

事業進捗を共有し、中期計画づくりに向けた課題整理を目的に、実施団体であるくすの木自然館が活動する鹿児島県始良市にて第2回連絡会を開催しました。

連絡会の翌日に行われた活動地視察では、絶滅危惧種の水鳥であるクロツラヘラサギが飛来している調整池を訪れ、野鳥と人が共存する地域づくりの取組について学びました。



第2回連絡会の様子

### ●協働ギャザリング(成果報告会)

各地で取組まれた事業活動の成果をもちり、さらにブラッシュアップするための成果報告会が東京で開催されました。各団体による事例報告後、団体ごとのブースに分かれ、参加者と事業担当者が直接意見交換を行い、事業に対する理解を深めました。

さらにグループワークでは、団体へのインタビューをとおして、協働の歩みやステークホルダーの変容について理解を深めるとともに、参加者との意見交換をもとに協働のポイントを明らかにし、協働のノウハウの共有を行いました。

## NPO法人おきなわグリーンネットワーク やんばる地域“美ら島・美ら海”連携プロジェクト

URL <http://okinawagreen.net/>  
住所 沖縄県那覇市上之屋314-2 サンメディアビル3F  
TEL 098-943-3223 FAX 098-988-0788

おきなわグリーンネットワークは、海が汚れる原因の一つである赤土等流出の軽減対策としてグリーンベルトの植栽を行い、持続的な沖縄の海の保全・再生と営農対策の強化に取り組んでいる団体です。今回の採択事業では、沖縄県北部大宜味村、東村が位置するやんばる地域において、農地からの赤土等流出対策を目的に、WWFジャパンや地元自治体、観光協会、学校、企業等と連携し、地域ぐるみによる対策に取り組まれました。観光協会と連携し、修学旅行生の体験活動としてグリーンベルト植栽を行うなど、環境・教育・観光の分野を横断する取組を展開し、農家だけでなく地域が協働・連携して持続的に取り組む仕組みづくりの実現を目指しました。



※グリーンベルト植栽とは、農地からの赤土等の流出を防ぐため、畑の周辺に草木などの植物を帯状に植える活動です。

### 「採択団体より」

にしはら たかし  
西原 隆さん  
NPO法人おきなわグリーンネットワーク 理事長



碧い海が赤く染まる、梅雨時や台風の大雨時に特定の地域で見られる沖縄の赤土等流出による状況です。今回、やんばる地域の農地における赤土対策の普及促進に向け、農業関係者だけではなく環境・教育・観光等の分野が連携した取組を行うことができました。活動をおとして、異なる主体が目標を共有して活動する「協働」の取組が、進展しない現状を打開し、新たな展開に踏み出す原動力となり地域自然環境の保全と人々のくらしが両立・共生する重要な要素になっていくと感じました。今後も沖縄の“美ら島・美ら海”を未来へ…その地域の思いを協働で繋げカタチにしていきたいと思っています。

## NPO法人くすの木自然館 錦江湾奥湿地ネットワーク活性化事業

URL <http://www.kusunokishizenkan.com/>  
住所 鹿児島県始良市平松7703番地  
TEL 0995-67-6042 FAX 0995-57-7337

くすの木自然館は、環境教育や自然体験活動をおとして、鹿児島県を愛する人々を育て、豊かな郷土の風土(自然・文化・生活)を後世に良い状態で継承していくための環境保全・普及啓発活動を行っている団体です。今回の採択事業では、クロツラヘラサギをはじめとする希少生物の生息地である錦江湾奥湿地の保全と持続可能な利用を目指し、行政や地元自治会、NPO等によるネットワークをベースに、生物調査や自治会清掃、公民館講座や観察会の開催等に取り組まれました。とくに、自治会との連携では、恒例行事となっている地域自治会の清掃活動に参加し、同時に啓発活動を行うことで、地域住民の環境保全意識の向上を促すとともに清掃活動への参加意識や、自分たちの地域や野生生物への関心を高めました。



また、クロツラヘラサギなどの希少生物や湾奥湿地環境を紹介する公民館講座や、住民の地域小学校の校外授業を地元自治会と協力して実施し、地域に密着した住民参加型の保全活動の取組を進めました。

### 「採択団体より」

おのだ ころ  
小野田 剛さん  
NPO法人くすの木自然館



錦江湾奥は始良カルデラの北側に沿い、始良市、霧島市と市を跨ぐだけでなく、多くの自治会や企業、NPO等、様々なステークホルダーが存在します。今回の事業では可能な限りのステークホルダーと、湾奥環境の保全と利用をより良い方向に、という共通の目標を掲げて、懇話会や協働取組を行ってきました。その中で新たなステークホルダーの参加もあり、啓発活動を協働で取り組んだことで、ネットワークのすそ野の広がりを実感しました。今後も錦江湾奥湿地ネットワークの活動を継続し、保全と利用を多くの方々と進めていきたいと思っています。

## 平成27年度の実施事業

| 地域  | 団体名                      | 事業名   |
|-----|--------------------------|---|
| 全国  | 公害資料館ネットワーク              | 公害資料館とステークホルダーの協働                                     |
| 北海道 | 「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会    | 天売島の海鳥保護を目的としたノラネコ対策促進のための協働取組                        |
|     | 有限会社 三素                  | 占冠地区小水力可能性調査  |
| 東北  | 一般社団法人 あきた地球環境会議         | 「社会復帰プログラム×森林保全」協働取組事業                                |
|     | ♪kim♪My米♪Oshu (マイムマイム奥州) | 米からエタノールとエサをつくる地域循環プロジェクト                             |
| 関東  | 公益財団法人 オイスカ              | 真鶴町「魚付き保安林」保全プロジェクト                                   |
|     | さがみ湖森・モノづくり研究所           | 地域材を活用した商品開発・販売および環境教育事業                              |
| 中部  | 一般社団法人 若狭高浜観光協会          | ブルーフラッグ認証取得活動を通じた海岸維持管理体制の再構築                         |
|     | 特定非営利活動法人 中部リサイクル運動市民の会  | リユースびん普及を通じた地産地消ビジネス構築プロジェクト                          |
| 近畿  | 公益財団法人 吉野川紀の川源流物語        | 紀の川(吉野川)流域における地域産業をESDの視点でいかす教材化                      |
|     | bioa(ビオア)                | 茨木市域のまちと農村をつなぐ環境教育の推進                                 |
| 中国  | 特定非営利活動法人 アンダンテ21        | 協働取組による益田川下流域の水質環境再生事業                                |
|     | 公益財団法人 水鳥地域環境再生財団        | 深化する協働「新しい学びのしくみ」で地域と対話し、発信する～世界一の環境学習のまち、みずしまを目指して～  |
| 四国  | NPO 森からつづく道              | 松山市北条地域の生物多様性を支える～トコジスト育成と農地保全・交流人口拡大プロジェクト～          |
|     | 特定非営利活動法人 環境の杜こうち        | 物部川流域まるごとエコシティプロジェクト～子どもたちから始まる香美市・香南市・南国市における環境保全活動～ |
| 九州  | 特定非営利活動法人 おきなわグリーンネットワーク | やんばる地域“美ら島・美ら海”連携プロジェクト                               |
|     | 特定非営利活動法人 くすの木自然館        | 錦江湾奥湿地ネットワーク活性化事業                                     |

## 協働ハンドブック「協働の現場」の紹介

環境省では平成25年度より環境課題解決のために「地域活性化に向けた協働取組加速化事業」に取り組んできましたが、この度、協働取組の現場から見た成功のヒントを一冊のハンドブックにまとめました。採択事業の事例をもとに、協働のつくり方や協働取組の基本プロセスを紹介するとともに、協働取組のあゆみやステークホルダーとの関係の変化をもとに、協働のノウハウの抽出を行いました。また、協働取組加速化事業をともにつくりだした有識者(アドバイザー委員)による協働取組を進める上でのアドバイスも掲載しています。また、九州・沖縄地域での協働事例として、一般社団法人小浜温泉エネルギーの取組も紹介されています。本書をご覧になりたい場合は、ホームページよりダウンロードいただくか、EPO九州オフィス内にて冊子をお渡ししています。

※ダウンロード先：<http://www.geoc.jp/information/report>



# 企業 × 環境保全 Green Gift プロジェクト

## 東京海上日動「Green Gift」プロジェクト

東京海上日動火災保険株式会社(東京都)が実施する「Green Gift」プロジェクト\*の一環として、全国のEPO、地域の環境NPO、東京海上日動、日本NPOセンターが連携して、国内各地で、主に子どもたちを対象とした環境保全活動に取り組んでいます。

九州地区での実施地域は、2014年度は佐賀県・宮崎県の2県、2015年度は長崎県・大分県・沖縄県の3県で、東京海上日動の各支店と地域の団体が連携し、企画づくりと運営を行います。EPO九州は企画協力として、活動広報や企画助言を行い、地域の資源やつながりを生かした活動づくりを応援しています。

\*「Green Gift」プロジェクトについて → <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/world/greengift/>



- 各主体の主な役割
- 地域の環境NPO：企画の提案とプログラムの実施
  - 東京海上日動各支店：企画への参加・協力
  - 地方EPO：企画協力・開催支援・コーディネート
  - 東京海上日動本店CSR室：各支店との連絡、情報発信
  - 日本NPOセンター：企画全体の運営、進行管理

## キックオフ・ミーティングの開催

**開催日** 平成27年9月16日(水)  
**会場** 東京海上日動ビル(東京都)  
**参加者** Green Giftプロジェクト実施団体(21団体)

2014年度と2015年度の実施団体が一堂に集まるキックオフ・ミーティングが開催されました。日本NPOセンターによるGreen Giftプロジェクトの趣旨説明ののち、2014年度実施団体による事例紹介が行われました。その後のグループディスカッションでは、前年度実施団体の取組をもとに、事業のポイントや留意点について今年度新たに活動を行う団体と共有し、よりよいプログラムの企画と実施につなげるグループワークを行いました。



## 長崎県 NPO法人 環境保全教育研究所

【第1弾】手作りの門松でお正月を迎えよう!

**開催日** 平成27年12月12日(土)  
**会場** 長崎市いこいの里 あぐりの丘

今年度1回目の活動が開催され、未就学児や小学生とその保護者など、多くの方々が参加しました。開会式終了後、団体による竹林整備の取組や門松の由来などの話を聞き、その後、親子で協力して門松作りに挑戦しました。まず、折り紙で飾りを作り、それから紙やすりで竹の切り口を磨き、水引で竹をしっかりと結び、最後に松や南天の実で飾りをつけて出来上がり。細かい作業もたくさんありましたが、家族みんなで協力して門松作りに取り組んでいました。門松作りを楽しみながら、里山保全の大切さや里山の豊かな資源についても学ぶことができた活動となりました。



## 大分県 NPO法人 緑の工房なぐらす

【第1弾】おおいた森と水の探検隊 ~庄内黒岳原生林と水の探検~

**開催日** 平成28年5月29日(日)※予定  
**会場** 庄内黒岳(大分県由布市)

「21世紀に残したい日本の自然100選」や「水源の森100選」などに選ばれている黒岳麓の原生林の散策や湧水さがし、生きもの調べなどの活動を予定しています。

## 沖縄県 一般財団法人 沖縄県公衆衛生協会

【第1弾】「カタツムリ」ってなんだ? ~カタツムリのフシギを発見しよう!~

**開催日** 平成28年4月9日(土)※予定  
**会場** 名護青少年の家(沖縄県名護市)

誰もが知っているカタツムリですが、日本には680種、沖縄県には180種ほどの多種多様なカタツムリが住んでいるといわれています。その特徴や違い、生息環境をカタツムリ博士と一緒に調べる活動を予定しています。

## 交流事業・出展

### 佐賀県 NPO法人 元気・勇気・活気の会

【第1弾】地域の大切な資源 クリークの保全

**開催日** 平成26年12月23日(水)  
**会場** 佐賀市北川副町校区地内

【第2弾】田んぼでの親子ふれあい教室

**開催日** 平成27年5月24日(日)  
**会場** 佐賀市本庄町鹿の子地内

開会式終了後、参加者全員でサツマイモとサトイモの植付け体験を行いました。幼稚園児から小学生、大学生、大人まで幅広い年齢層の方々が参加し、額に汗をにじませながら植付けに挑戦。その後、団体より田んぼや田んぼに暮らす生きもののお話を聞きました。昼食にはカレーライスのふるまいがあり、みんなでおいしくいただきました。

参加者は野菜づくりの楽しさに触れるとともに、土や作物、生きものとの関わりについて学ぶ貴重な活動となりました。



### 宮崎県 NPO法人 大淀川流域ネットワーク

【第1弾】カヌーと雨を体験しよう

**開催日** 平成27年5月17日(日)  
**会場** 宮崎市役所下大淀川河川敷

【第2弾】五感を使って川を楽しもう!

**開催日** 平成27年8月23日(日)  
**会場** 綾町松原自然公園河川敷

夏らしい青空の下、綾南川の河川敷で活動がスタート。参加者は2グループに分かれて、五感を使った水辺の環境調査とボードを使った川流れなどの体験活動を交互に行いました。ボードを使った活動では、川流れの体験、のぞきメガネを使った生きもの観察、魚のつかみ取りの3つの活動を行いました。今回の活動をとおして、水辺環境の大切さや川で遊ぶ楽しさを体感するとともに、あらためて水の大切さや人と川の関わりについて考える機会となりました。



### 環境イノベーションフォーラム

**開催日** 平成28年1月26日(火)  
**会場** 鹿児島商工会議所ビルアイムホール(鹿児島市)

**主催** 九州経済産業局、(一財)九州産業技術センター、九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(K-RIP)、(一社)九州経済連合会、EPO九州

南九州でポテンシャルの高い一次産業の更なる活性化のため、話題の「ウルトラファインバブル」をはじめとした「一次産業×環境」技術を紹介するマッチングイベント『環境イノベーションフォーラム』が開催され、一次産業従事者の方はもとより、関係団体や農業・水産・環境ビジネス分野より大勢の方の参加がありました。「小さな泡が世界

を変える~ウルトラファインバブルの可能性を探る~と題した特別講演が行われた後、畜産、水産、農業の各分野の最先端の取組事例の紹介が行われました。



### イベント出展

EPO九州やESDについてのパネル展示などを九州各地で行い、取組・活動をアピールしました。

●アースウィークくまもと2015 パネル展

**開催日** 平成27年7月3日(金)~14日(火)  
**会場** 熊本市国際交流会館(熊本市)

●廃棄物資源循環学会 第26回研究発表会 市民展示

**開催日** 平成27年9月2日(水)、3日(木)  
**会場** 九州大学伊都キャンパス(福岡市)

●ながさきエコライフ・フェスタ2015

**開催日** 平成27年10月25日(日)  
**会場** 長崎水辺の森公園(長崎市)

●パレアロビー展

**開催日** 平成27年12月4日(金)~18日(金)  
**会場** くまもと県民交流館パレア(熊本市)



## ビジターセンターの紹介

ビジターセンターとは、国立公園の主な利用施設のひとつで、地域の自然情報の展示や公園の利用案内を行っています。九州・沖縄管内には、環境省が直轄で管理しているビジターセンターが9箇所あり、その国立公園ならではの自然や文化を紹介しています。また、自然観察会やフィールドワーク、室内でのクラフト活動など、施設ごとにさまざまなプログラムがあり、来館者が直接自然や文化を体験できる機会を提供しています。施設には解説員が常駐し、地域の自然や見どころなどについて案内を行っていますので、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

- 1 九十九島ビジターセンター
- 2 雲仙諏訪の池ビジターセンター
- 3 雲仙お山の情報館
- 4 平成新山ネイチャーセンター
- 5 阿蘇草原保全活動センター 草原学習館
- 6 南阿蘇ビジターセンター
- 7 長者原ビジターセンター
- 8 えびのエコミュージアムセンター
- 9 重富海岸自然ふれあい館 なぎさミュージアム

※ビジターセンター等の詳細については、次のURLを参照してください。 <http://kyushu.env.go.jp/link.html>

## ●特定外来生物ツマアカスズメバチの侵入に地域の目で警戒を。

ツマアカスズメバチは中国・台湾・東南アジア・南アジア原産のスズメバチで、既に侵入定着が確認されている韓国やヨーロッパ(フランス、スペイン)では、ミツバチや在来スズメバチの減少が報告されています。

我が国においては、平成24年10月に長崎県対馬市において初めて生息が確認され、以来、対馬島内での分布域を拡大しています。平成27年3月に外来生物法に基づく特定外来生物として指定され、対馬島内において地元自治体や環境省が防除を実施しています。

そうした中、平成27年9月には対馬島外で初めて、福岡県北九州市において本種の巣が1個確認されました。環境省では緊急調査を実施し、平成28年3月現在、新たな巣や個体は確認されていませんが、引き続き警戒が必要です。

ツマアカスズメバチの対馬市や北九州市への侵入経路は明らかではありませんが、貨物船等へ非意図的に混入して侵入した可能性が高いと考えられます。侵入した場合には早期発見、早期駆除が極めて重要です。そのため、地域の皆様の監視の目が重要となります。ツマアカスズメバチと思われるものを発見、捕獲した際には、最寄りの地方自治体や管轄区域の環境省地方環境事務所にご連絡ください。



ツマアカスズメバチ

## 《ツマアカスズメバチの巣の特徴》



ツマアカスズメバチの巣

- ① 木の5m以上の高いところに営巣
- ② サッカーボールより大きな丸い形。
- ③ 表面は茶色の外皮に被われデコボコしている。
- ④ 全身が黒っぽく、大きさ2センチくらいのハチが巣の表面にとまっていたり、巣の周りを飛んだりしている。

詳細：環境省HP「特定外来生物ツマアカスズメバチについて」参照  
<http://www.env.go.jp/nature/intro/1outline/attention/tsumaaka.html>

## ●地球温暖化の「緩和」と気候変動の影響への「適応」が求められています。

我が国では、気候の温暖化によって、水害・土砂災害が毎年のように全国各地で発生しているほか、農作物の収量や漁獲量の低下、動植物の分布域の変化、桜の開花時期に代表される季節感の変化など、様々な影響が現れています。

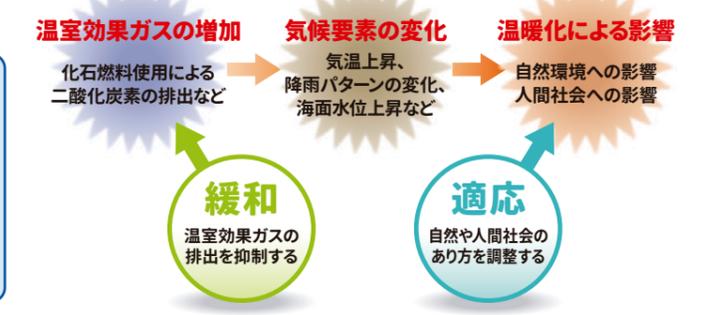
こうした状況のもと、気候変動の影響による被害を最小化あるいは回避し、迅速に回復できる、安全・安心で持続可能な社会の構築を目指すため、2015年11月に「気候変動の影響への適応計画」が閣議決定されました。

また、当事務所では、いち早く適応の推進に取り組み、この度「九州・沖縄地方における気候変動影響への適応策事例集」を作成しました。( [http://kyushu.env.go.jp/earth/mat/m\\_1\\_1.html](http://kyushu.env.go.jp/earth/mat/m_1_1.html) に掲載予定)

一方で、我が国は、2015年7月に、温室効果ガスを2030年度に2013年度比で26%削減する約束草案を国連に提出し、これを具体化するため、地球温暖化対策計画の策定を進めています。この計画では、26%削減目標の達成に向け、徹底した省エネルギー化、再生可能エネルギーの活用、ライフスタイル・ワークスタイルの変革などの対策を大胆に実行する方針です。

現在の地球温暖化の状況のもとでは、温室効果ガスの排出を抑制して地球温暖化の緩和に取り組みつつ(緩和策)、既に起こりつつある、あるいは起こり得る気候変動(温暖化)の影響への適応(適応策)の推進が求められています。

- 緩和とは…地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出抑制等
- 適応とは…既に起こりつつある、あるいは起こりうる気候変動の影響に対して、自然や社会のあり方を調整



## ビジターセンター意見交換会

開催日 平成28年3月14日(月)  
 会場 熊本地方合同庁舎A棟 共用会議室A(熊本市)

九州・沖縄管内に9箇所ある環境省直轄のビジターセンター等より担当者が出席し、各センターでの取組を共有するとともに、ビジターセンター間の連携等について協議することを目的に意見交換会が開催されました。EPO九州の取組やESDについての紹介が行われ、ビジターセンター間の連携をテーマとしたワークショップでは、センター間の情報共有や連携イベントの開催、スタッフのスキルアップ研修、ビジターセンター連絡会の開催など、さまざまな提案が出され、今後の展開に期待がもてる機会となりました。



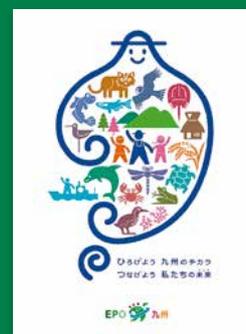
# EPO九州オフィス案内

## ESD環境教育モデルプログラムガイドブックの紹介

環境省では、学校や社会教育施設等での活用を目的に、ESDの視点を取り入れた環境教育モデルプログラムガイドブック(全3冊)を作成しました。

本ガイドブックをご覧になりたい場合は、ホームページよりダウンロードいただくか、EPO九州オフィスにて冊子をお渡ししています。

※ダウンロード先：<https://edu.env.go.jp/esd/data>



## ● 環境省九州環境パートナーシップオフィス EPO九州とは

今日の環境問題は、個々の取組では解決しにくい複合的な要因を持っています。このため、様々な分野の人や組織が協力していくことが必要です。EPO九州は、市民、行政、NPO、企業などの相互の連携・協働による環境保全活動を支援し、「持続可能な九州づくり」を目指します。



## ● メールマガジン「えぽねっと九州」を配信しています

九州・沖縄地区の環境情報や九州地方環境事務所からのお知らせ、公募情報などをメールにてご案内しています。この機会にぜひEPO九州メールマガジンへご登録ください。ご登録は無料です。登録方法につきましては、EPO九州HP内の「メールマガジン」よりご案内しています。過去のメールマガジンも掲載していますのでぜひご覧ください。

## ● 環境活動情報をお寄せください

みなさまの団体情報や活動情報など、環境活動情報をEPO九州までお寄せください。お預かりした情報を、ホームページへの掲載、オフィス内での掲示などにて紹介させていただきます。

また、各種環境活動に関するご相談も随時受け付けております。お気軽にお問合せください。



## OFFICE

### 九州環境パートナーシップオフィス(EPO九州)

〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館2F

**TEL** 096-312-1884 **FAX** 096-312-1894

**E-mail** [info@epo-kyushu.jp](mailto:info@epo-kyushu.jp)

**URL** <http://epo-kyushu.jp>

**業務時間** 10:00~19:00(火~土曜日)



休業日/日・月曜日、祝日、年末年始。熊本市国際交流会館休館日。  
(ただし、臨時休業する場合があります。)

お待ちしております!

